# 天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2016年５月
新緑号

秋田高校東京同窓会
〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インペリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内
TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087
http:www.shuko-ob.net/

## 2016年6月25日(土)

# 秋田高校東京同窓会
# 総会・懇親会

今春、100年余の歴史ある大館桂高校が大館高校、大館工業高校の２校と共に廃校となり、統合され、県立大館桂桜高校となった。同窓会の根本は母校の存在にあるのはいうまでもないこと。その母校が廃校あるいは別の名称へと変る、というのはどういう思いにさせられるものか‥‥と、考えさせられる。

母校の秋高にも歴史的流れを覗いてみれば、さまざまある。たとえば学制改革(昭和23年)直後に秋田南高校を校名として新制高等学校となった僅かな期間がある。また現在あたり前になっている“しゅうこう”の呼称は学制改革以前からの流れで昭和20年代後半辺りまでは秋田工業高校の通称だった。

今では些細に思えること(？)も、その最中にいた同窓の皆さんにしてみればどんな思いだったろう。

時には、母校の歴史を紐解き、同窓同士で語り合ってみるのも大事なことかもしれません。

## 講演者

**楢岡 孝武 氏**
S46年卒

太平洋汽船株式会社
代表取締役社長
秋田市観光クチコミ大使

慶応義塾大学法学部卒業後の1975年、海外勤務の希望もあって日本郵船入社。同社でニューヨーク7年、シカゴ1年の計8年、2度の米国駐在を経験。2003年同社経営委員。2007年同委員兼任で東京船舶株式会社代表取締役社長。2011年現職の太平洋汽船株式会社代表取締役社長に就任。

その会社生活は、海上コンテナ輸送関連への関与が長く、東京船舶では韓国ー秋田ー苫小牧を結ぶコンテナサービス「どさんこまちサービス」、太平洋汽船では大型バルカーによる火力発電所向け燃料炭等の輸送事業等にトップとして従事。

近年、少しでも故郷秋田へ恩返し、との思いの下、「秋田市観光クチコミ大使」として、その人脈の広さを活用し、口コミによる秋田の魅力の伝達に尽力している。

**皆様の総会・懇親会へのご参加、心よりお待ちしています。**

### 開催要項

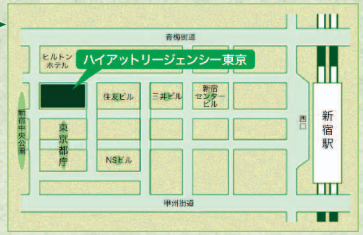
- 会　場 …… ハイアットリージェンシー東京 >>
- 受　付 …… 16：00 ～
- 総会・事業報告 …… 16：30 ～
- 講　演 (楢岡孝武氏) ‥ 17：00 ～ 17：50
- 懇親会 …… 18：00 ～

◆ 当日会費　・8,500円
※ 同封の振込用紙にての前振込の場合は 8,000円です。

ＪＲ新宿駅西口
徒歩約9分

都営大江戸線
都庁前駅A7出口
C4通路徒歩1分

丸ノ内線
西新宿駅徒歩4分




東京都新宿区西新宿 2-7-2　TEL 03-3348-1234

## 橋本五郎の AKITA 元気トーク

秋田高校東京同窓会 会長
**橋本 五郎**　S40卒

### 一も人、二も人、三も人

関東大震災の時の内相として復興にあたり、今日の東京をつくった後藤新平の言葉として残っています。「ビスマルクはいえり、『一も金、二も金、三も金』。予はいわん、『一も人、二も人、三も人』」。この言葉をそのまま題名に拝借して、中央公論新社から本を出しました。私がこれまで出会った、五十一の心に残る言葉を集めて、その時々にどれほど生きる勇気を与えられたかについて書きました。こんな構成です。

第Ⅰ章「いかに生き、いかに死ぬか」第Ⅱ章「不易の軸」第Ⅲ章「ささやかさに真実がある」第Ⅳ章「母は強し」第Ⅴ章「父は哀し」第Ⅵ章「リーダーはかくあるべし」第Ⅶ章「政治の本質とは」第Ⅷ章「ユーモアの刃」第Ⅸ章「凛として生きる」第Ⅹ章「明日への希望を」

「汝、何のためにそこにありや」の鈴木健次郎先生、哲学者の西田幾多郎、社会学者の鶴見和子、慶応義塾長の小泉信三、伊藤博文、チャーチル、ケネディ、サッチャー、中曽根康弘、李登輝さんら古今東西さまざまな人が登場します。

たとえば櫻井よしこさんの母、以志(いし)さんの口癖は、「何があっても大丈夫よ。お母さんがあなた方を守るから、安心していらっしゃい」でした。櫻井さんのお父さんは水商売の女性と付き合うようになって家に帰らず、お金も入れないため、櫻井さん母子はたちまち困窮します。以志さんはさまざまな仕事をしながら二人の子どもたちを育てます。決して泣き言は言わず、何があっても大丈夫と言い聞かせるのです。

以志さんは、人生や人間のいい面ばかり教えようとしました。家庭を顧みない夫のことも決して悪口を言いませんでした。子どもたちには「父の不在は仕事が忙しいからだ」と言い、「えらいお父さんだ」と言い聞かせたそうです。いろいろ考えさせられます。

# 平成28年 大学生との交流会・新春賀詞交換会 報告

## ◆平成28年大学生との交流会

交流会担当　須田 紘彬　H16卒

今年度より年始の「学生と社会人の交流会」(就職相談会)を担当させていただきました平成16年卒の須田です。

交流会はほぼ例年と同じ３部構成です。最初に４年生からの就職活動体験談の発表、次に私から就職活動の流れと大事なこと、最後に社会人との座談会という流れです。４年生は平成23年卒の石川千里さんと同年卒の佐藤啓太さんにお願いいたしました。お二方とも最初から持っている自分軸と、就職活動の中での成長していく過程をわかりやすくプレゼンしていただきました。私のセミナーでは採用スケジュールの変更に伴う影響についてお話しさせていただきました。社会人との座談会では、10分程度で時間を区切り、多くの同窓生と職業のみならず「働くこと」を中心とした生き方や葛藤までお話ししていただきました。このようなつながりが強いことが同窓会の魅力だと感じます。来年も改善、工夫をして参加者が増えるよう努力いたします。同窓生の皆様もご協力のほどよろしくお願いいたします。

## ◆平成28年新春賀詞交換会

## 平成28年1月23日／於：アルカディア市ヶ谷

# 寄稿

## 佐々木 崇伊 H26卒

今回秋高東京同窓会の交流会と賀詞交歓会に初めて参加させていただきました。会長の橋本五郎さんをはじめ、たくさんの先輩方と交流することができ、大変嬉しく思っています。

秋高を卒業して３年が経ちますが、母校のタテのつながりの強さを改めて感じました。

交流会で、この春から社会人になる先輩から就活体験を聴き、また既に社会で活躍されている方々から様々なアドバイスをいただきました。就活セミナーでは、キャリアアドバイザーの須田さんから就職活動をする上での大事なお話しを伺い大変参考になりました。

私は大学卒業後、秋田県で就職し、将来の秋田県の発展に貢献できるような人材になりたいと思っています。そのためにも残りの３年間でたくさんのことを学んでいきたいと思います。

特別公演では、大学の先輩でもある田口大貴さんから「箱根駅伝を走って」という演題で、ご自身の箱根駅伝の思い出を中心に語っていただきました。駅伝メンバーに選ばれるまでの苦悩や、他の選手との駆け引きなど、テレビではわからない生の声を聞くことができ、とても面白くあっという間の時間でした。

最後に、会を通じてたくさんの先輩方とお話しをする機会をいただき、とても充実した時間であり刺激的な1日でした。ぜひ、来年も再来年も参加して先輩方との交流を深めていきたいと思います。

## 高山 順 H26卒

この度は秋高東京同窓会を開催してくださりありがとうございました。今回のような縦のつながりを作ることができる機会というのは、秋高のような伝統のある学校でしかできないと思い、あらためて秋高のOBであることに誇りを覚えました。また、就職に関する情報をたくさん聞くことができたので大変貴重な時間となりました。特に、今年就職が決まった方のお話では、具体的にどんな準備が必要でどのようにして就活に挑めばよいのかということを経験に基づいてお話をしてくださったので、今後の自分の指針を立てるのに大変ためになるお話でした。

自分がこの会に参加しようと思った理由の一つとして、就職に関する知識を増やそうと思ったことがあります。そのため、エントリーシートや説明会、実際の面接など様々な点で現場の話が聞けたので、就職に対する不安を減らすことにつながりました。

自分はまだ２年生ですが、今からできることを今回の会で見つけることができたので本当に参加して良かったです。そして今回講演をしてくださったH22年卒の田口先輩は自分の大学の先輩でもあったので交流できたことは大変光栄に思いました。

偉大な先輩方の背中を追い続け、秋高OBとして誇れる将来となるようにこれから頑張っていきたいと思います。

## 黒田 慶子 H25卒

初めて出席させていただきました。普段はなかなかお会いすることのできない先輩方とお話しすることができ、有意義で楽しい、とても新鮮な時間でした。校歌も卒業してから初めて歌い、高校時代が懐かしくなりました。私よりもずっと前に卒業した大先輩の方々が歌詞を見ずに楽しそうに校歌を歌っていました。秋田高校を誇りに思っているからこそ、卒業してから何十年経った今でも、高校時代のように校歌を歌えるのだなあと感じました。

交流会では、美味しい食事を食べながら、たくさんの先輩方とお話ししました。就職活動の相談にも親身になって乗ってくださったり、お仕事のことについても普段は聞く機会のないことまで教えていただいたりしました。高校時代のお話もして、共通の懐かしい思い出や、私が高校生だった頃とはまた違った高校生活のことが聞けました。

先輩方と交流して感じたのは、皆さんそれぞれの分野でご活躍なさっていて、 まさに「母校のほまれを拡げよよもに」でした。そのような素晴らしい伝統を、私も私らしい形で継承していきたいと考えました。秋田高校東京同窓会を通して、参加前に比べて視野や価値観が広がったように感じます。来年の同窓会も、参加できたらいいな、と思います。また、来年はぜひ、もっと多くの同級生や後輩にも参加して欲しいと感じました。

## 齋藤 晴樹 H23卒

秋田高校の同窓生から勧められ、私は今回の賀詞交換会に初めて参加しました。誘われるままに会場に出向いた私でしたが、参加して本当に良かったと思っています。

その理由のひとつは、高校時代の友人と久々に会えたことです。浪人と留学のために同輩たちからは多少遅れて就職活動をする私は、就職活動を終えた友人の体験談を聞かせてもらう形となりました。就活という難関を乗り越えた友人たちはとても頼もしく、自分も頑張らなければ、という気持ちを新たにしました。

また、各業界で活躍していらっしゃる先輩方との交流の機会があったことも、大変ありがたく思いました。上京して大学に進んでからというもの、秋田高校出身者と知り合う機会が少ないと感じていました。そんな私にしてみれば、先輩方との「縦のつながり」はとても心強く感じられました。先日も、この交流会で声をかけてくださった先輩からの紹介で、志望先で働いている先輩にOB訪問をさせていただくことができました。

余談になりますが、私が在学時に委員長を務めていた放送委員会の大先輩にも図らずもお会いし、感動してしまいました…。

私は現在、就職活動本番を目前に控えていますが、以後も秋高OBのつながりを大事にし、今度は自分が「頼れる先輩」になりたいです。

最後になりますが、就活その他について交流会にて様々なご助言を下さった先輩方に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

## 石川 千里 H23卒

交流会・賀詞交歓会へは昨年に引き続きの参加となります。今回は北都銀行内定者として就職活動の体験談をお話しさせていただきました。昨年は就職活動を控えた身として参加させていただいておりましたので、依頼が来たときは恐縮の限りでしたが、昨年秋田就職総合研究所の須田紘彬さんのお話に背中を押されたこともあり、今回お受けさせていただきました。

当日は昨年も貴重なお話をして下さった先輩方、町田会長はじめ春から２つの意味での先輩となる皆様、正月に会ったばかりの見慣れた同期などに囲まれ、様々な気持ちが入り交ざり、内定式振りに緊張いたしました。終了後、参加された皆様から頂いた温かい言葉に励まされました。御礼申し上げます。

また、同期である佐藤啓太さんのお話を聞き就職活動への取り組み方は多種多様であると再認識いたしましたが、やはりいかに自分らしさを発揮できるかが、就職活動において最も重要なことなのではないでしょうか。

春から５年ぶりに秋田での生活が始まります。東京での学生生活を経て、人と人との関係が密であることが、秋田の良さであると感じております。これからも、秋田高校同窓会を始め、一つ一つの“ご縁”を大切に生きていきたいと強く感じました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# 「平成28年 大学生との交流会・新春賀詞交歓会」に寄せて

## 山中 佑美　H23卒

寄稿の「たすき」を、この度光栄にも受け取らせて頂きました。私が初めて秋田高校東京同窓会に参加させて頂いたのは一昨年です。我々「東京組」にとって、本同窓会は懐かしい気持ちに癒され、また明日から頑張るエネルギーとなる「給水地点」ではないでしょうか。

この度の賀詞交歓会は駅伝ランナー田口大貴先輩のお話から始まりました。田口先輩の活躍目覚ましい秋田高校当時の思い出を一つ。私は生徒会副会長を務め、生徒会誌「羽城」の各部活動の大会成績を編集していました。そこで発見、陸上部の実績欄にズラリと連ねる「優勝 田口大貴」の文字。「この人は大物になる」（当時すでに大物でしたが）、そう思っていた先輩がついに箱根駅伝へ出場したことは同じ高校出身者として大変喜ばしく感じます。

会場を変えた賀詞交歓会第二部。各分野の最前線で活躍している先輩方のお話をじっくりと聞けるこの機会は、まるでスポーツ選手への独占インタビューのようだと毎回感激しております。会場の盛り上がる中、駅伝さながら颯爽と駆け付けてくださった橋本会長に、同窓会への熱い思いを感じました。

人生という長距離走の中で、私の前には秋田高校の先輩方の偉大なる背中があります。そして隣には、共に走る同期がいます。賀詞交歓会の前に行われた就職相談会では、同期の石川、佐藤が秋田高校OBOGとして後輩たちに就職説明をしたことを誇らしく感じます。いつか私も後輩たちに、秋田高校東京同窓会の伝統という名のたすきを渡したい、そう切に感じる一日でございました。

## 間宮 恒明　H13卒

平成13年卒の間宮恒明と申します。「学生と社会人の交流会」及び「賀詞交歓会」、一昨年前SNSで開催を知りましたが昨年は都合がつかず、今回が初参加となりました。

当初交歓会のみの参加予定でしたが、幹事様よりお声がけ頂き交流会にも参加し、就職活動を控えた大学生の希望あふれる姿に、私自身が気持ちを新たにすることができました。

賀詞交歓会に関しましては、出席者名簿を拝見した際には、錚々たる先輩方に若干の緊張を覚えましたが、交歓会の冒頭、秋田県民歌の斉唱で声を出すと自然とほぐれました。数年ぶりに歌いましたが、前奏を聞くと「秀麗無比なる鳥海山よ」が自然と口から出て、数年前妻を連れて秋田に帰省した際の象潟から見た鳥海山の情景が思い起こされました。交歓会においては、同窓の先輩・後輩の方々との交流の中で、色々なご縁を感じたり、含蓄のあるお話を伺ったりするなど、非常に充実した時間であったことから、２月には大学のサークルの東京OB会にも初めて参加してみたほどです。

高校を卒業して15年近くになりますが、交歓会においては若いほうから１割でした。私自身多く得るものがありましたし、何よりも「楽しい」ひと時だったので、初参加の身で恐縮ではございますが、東京同窓会の一層の裾野の広がりを期待申し上げたいと思います。また皆さまにお目にかかれるのを楽しみにしています。

## 伊藤 正寛　H8卒

私がはじめて秋高東京同窓会に参加したのは、４年前のことでした。当時、仕事以外の交流は皆無であり、仕事にとらわれない新たな交流を築きたいと思い、同窓会に参加しました。同窓会に参加し、同年代の出席率の低さに非常に驚きました。同級生は１人もおらず、同年代が1、2人いるだけといった状況であり、新たな交流を構築できた喜びよりも、若い世代が少ない寂しさが強く印象として残りました。

その後、仕事の予定が合わず欠席が続いていましたが、今回久しぶりに参加することができました。以前よりも同年代の参加者が増え、活気が増したように感じました。そのように感じた理由の一つとして、特別講演を務めた田口大貴さんと、「学生と社会人の交流会」の講師を務めた須田紘彬さんが、共に20代であったということが挙げられます。若い2人が講演者、講師として同窓会に貢献していることに、非常に感銘を受けました。また、今回「学生と社会人の交流会」に、はじめて参加させて頂き、どの学生も志が高く、自分の将来のビジョンを明確に持っているという印象を受けました。就職を間近に控えた学生が、社会人の諸先輩から様々な情報を得ようとする積極性にも、とても感心しました。

今回の同窓会は、自分よりも若い世代から色々な刺激をもらう良い機会となりました。今後も積極的に参加し、同年代の方々と協力して、秋田高校東京同窓会の更なる発展に努めて行きたいと思います。

声

# 郷土創生特別委員会について

郷土創世委員会・委員長
**佐藤 裕之**　S55卒

今年２月１日現在の秋田県人口は102万人を割りこみ、101万人台になったと報じられています。来年中には、100万人の大台を割るとも予想されています。著しい人口減少とともに、経済も低迷・縮小しています。

町田会長は、昨年の総会において、同窓会の目的に掲げられている「会員相互の親睦」や「母校の発展」も、郷土の創生なくしては実現できないと述べ、同窓会として、ふるさと秋田の創生、発展に貢献していく考えを強調しました。

これを受けて、会の目的を定めた会則第２条「会員相互の親睦を図り、母校の発展に尽くす」に「郷土の創生に尽くす」ことを加える改正がなされ、このことに対応すべく、郷土創生特別委員会が設置されました。

我が同窓会は、ただいたずらにノスタルジアに浸るだけの存在であってはならず、己の今を形作ってくれた郷土への恩返しも込めて、地元振興に一肌脱がねばならぬのであって、その矜持を具体的な行動に移すというのが当委員会の使命だと理解しています。

現在委員会では、この趣旨を確認し事業素案の検討を続けており、近々具体的なアクションプランを措定する予定です。

郷土秋田の活性化の一翼を我が秋田高校同窓会が担うという、大胆且つ斬新な取り組みです。同窓生諸氏の格別のご支援をお願いします。

# 特別寄稿

ブラジル訪問記・ラグビー部OB話

## ブラジル(サンパウロ・リオデジャネイロ)訪問記

伊藤 清信 S37卒

2015年10月22日から31日迄、ブラジル秋田県人会からの招待で、「ブラジル秋田県人会設立55周年記念式典」へ出席する為、2013年7月に続き、再びブラジルに行って来ました。

今回私達一行は、6名ですが、私達の他に、秋田県知事及び秋田市副市長一行が式典・行事に参加する為、ブラジルに来ており、秋田県関係者だけでも総勢20名以上おられたのではないかと思われます。

式典を始めとする公式行事は、初日は、ブラジル秋田県人会会館改装落成式典、二日目は、ブラジル秋田県人会設立55周年記念式典、三日目は、「高岡農場」見学、と続き、これらの行事の全てに、知事一行と共に、我々一行も参加し、ブラジル秋田県人会の皆様方と深い絆を築いて来たつもりです。

行事終了後、私達一行は、サンパウロからリオデジャネイロへと飛び、リオの市内、二、三の観光地を廻って見学し、その後、帰国の途に就いたのです。

今回のブラジル訪問で感じたのは、日本人及び日系人は、良くブラジル社会に溶け込んでいると言うことです。即ち、社会的壁を全く感じさせ無いのです。ブラジル社会に溶け込むには、数多くの壁があったことは確かですが、それを乗り越えているのです。他者の文化、宗教、言語、習慣等々を受入れ、その社会に貢献することにより多くの信頼を得、ブラジル社会に溶け込み、その誠実さと教育水準の高さにより、ブラジル社会でのステイタスの高さと信頼度の高さを、今も維持できているのだと思いました。

その一つの例が、ブラジルで2014年、101歳で亡くなられた京都市出身の画家「大竹富江」さんです。芸術は、皆の物、野外に作品を展示し、皆で見るべきだとして、自らの作品を、ブラジル各所に展示し、人々の共感を得た人で、ブラジルの著名人にもなり、亡くなられた時、ルセフ大統領が哀悼の弔辞を送った程の人であったとのことです。この方の作品の一つは、サンパウロのイビラプエラ公園前の高速道路上に設置された巨大なオブジェとして、今も見ることができます。

我々は、よくグローバル化とか絆とか言いますが、どうすれば真のグローバル化とか絆を図ることが出来るのか、ブラジルの日本人・日系人に、その答えを見た様な気がしました。

## 節分の夜、ラクビーＯＢ３人で・・・・

伊藤 博基 S52卒

さる節分の夜、秋田高校ラグビー部ＯＢ３人が夜の街に繰り出した。年長はＯ氏昭和44年卒、次席は私で昭和52年卒、そして最若手はＳ氏昭和56年卒だ。

図らずもその夜の話題は、「近々７度目の花園に行ける予感がヒシヒシとする」に収斂された。この裏付けは前回花園県予選での対中央高校戦の大善戦に、新人戦での対中央戦勝利(南高校との合同チームで)や将軍野中学の東日本中学校大会優勝もあるが、何といってもＷカップの南アフリカ戦勝利が決定的だ。これで世間のラグビーに向ける目が一夜にして劇的に変わった。

例えば高田馬場のバーで、「オら、高校でラグビーやってたもの」とグラス片手に秋田弁を虚空につぶやくだけで、ママも年配女性客も感嘆と尊敬の目を向け一気にデュエット希望が殺到するほどだ。

そんな世間の好感度抜群のラグビーに興味を持つ中学３年生やレギュラーが遠い某運動部の高校１、２年なら秋高でラグビーをやろう。　まず、１チーム15人も必要なのに部員が少ないので素人でもレギュラーになれる確率が非常に高い。次いで短時間集中練習なので計算上は文武両立が成り立つ。さらにスーパー１年生が入部するなど巡りあわせが良ければタナボタ的に全国大会に行けるが、その目論見もほぼ立った。そしてトドメは卒業後のＯＢの仲の良さで毎回毎回、ほぼおんなじ話で延々と飲める。

その延々話に７度目の花園出場が加わる日も近いとくれば、もはや決まりだろう。

# 同期会だより

S30東京同期会より

## ◆首都圏「秋高30会」傘寿新年会　佐藤 正彦　S30卒

去る1月13日(水)首記会合が渋谷の「シダックスコミュニティー」で行われました。

参加者は22名(30会16名、野球部OB3名、あげまき会からの賛助会員3名)で男鹿谷和美氏(32年卒、甲子園球児)のお世話で格安料金で請け負って頂きました。

物故会員への黙とう、松澤会長挨拶(代読)北海道千歳市から遠路はるばる出席の鈴木良一兄の乾杯の音頭で開宴。名簿と顔を確認しながら笑顔で再会を楽しむ顔・顔・みんな笑顔だ。

たっぷり4時間十分堪能した会合も時間となり最後に後輩達の「甲子園と花園への出場を」祈念して「校歌と故郷」で絞めて去りがたい集いが終了しました。

# 支部だより

津軽支部より

## ◆秋田高校同窓会津軽支部紹介　成田 明子　S60卒

秋田高校同窓会津軽支部は青森県の小さな支部です。平成10年11月発行の「秋高謳歌」に掲載された初代支部長の故伊藤弘先輩(S19卒)の記事によれば、当時から見て２年半前に結成、総勢52名であったそうです。支部長は藤田正一先輩(S36卒)、平岡恭一先輩(S44卒)に引き継がれ、現在に至りました。

年１回の総会・懇親会と、支部会報の発行を通しての交流が活動のほとんど全てです。現在は津軽地区だけではなく、青森県全域の卒業生の方にご案内をお送りしております。

そのささやかな活動さえも休止状態になった期間もございましたが、平成17年以降はなんとか総会の開催は続けてまいりました。写真は平成27年の支部総会・懇親会の時のもので、秋田高校同窓会本部から事務局長の佐藤英明先輩(S46卒)にもお越しいただきました。送付先は約80名、うち、会合参加者は16名でした。支部会報は残念ながら途切れがちですが、毎年発行することが当面の目標です。

平成22年６月に弘前大学みちのくホールで開催いたしましたドキュメンタリー映画「平成熊あらし」(岩崎雅典監督(S34卒)作品)鑑賞会とパネルディスカッションは、唯一大きなイベントであったといえます。秋山秀昭先輩(S39卒)をはじめとする日本野生環境学術振興会(jeco)の方々の強い後押しで実現することができました。運営側が不慣れで反省点も多かったものの、新聞などでイベントの情報を知った弘前市民の方や、野生動物のモニタリングをしている弘前大学の学生さんにもお越しいただきました。生命科学の研究をされている何人かの先生からも、「とても興味深い内容だったのでもっとたくさんの方に見ていただきたかった」というご感想をいただきました。

こじんまりとしたアットホームな地域ですので、秋田を通り越してＪターンされる方がいらっしゃいましたら是非ご一報いただければと思います。

# ご報告　けやき会・秋高連

## ◆けやき会

けやき会は秋田市東京事務所を事務局に、秋田市にある高校の首都圏同窓会(現在8校＝秋高, 中央, 南高, 明桜, 金農, 北高, 秋工, 秋商)と新屋郷土会によって構成されています。会員相互の親睦を図り、秋田市勢の発展に貢献することを目的に、秋田市との緊密な連携の下に活動をしています。

毎年11月に秋田市長をお迎えして開催される秋田市とけやき会会員及び関連在京企業・団体との交流・親睦を目的とする、在京秋田市政情報交換会をメインイベントに、浅草竿燈祭りの支援、ゴルフコンペ、高尾山ハイキング、年度末懇親会といった年間行事を行っています。

昨年の浅草竿燈祭りの様子

昨年度はけやき会設立20周年にあたりましたが、その記念事業は本年度の秋田市役所新庁舎竣工に合わせ、6月の秋田市長表敬訪問等と共に行われる予定です。その他諸行事は例年通り開催予定です。

当会からは伊藤清信(S37卒)と武内暁(S42卒)の2名がけやき会運営委員として協力しています。

## ◆秋高連

秋高連(在京秋田県高等学校同窓会連合会)は秋田県高等学校の在首都圏45の同窓会で構成されている組織です。例年11月の秋田県知事等の来賓をお迎えして行われる"秋高連フェスタ"を軸に、ふるさと訪問、ゴルフコンペ、秋田ふるさと応援団との連携による高校スポーツ大会秋田県代表校応援等、同窓会相互の親睦並びに秋田県の高等学校と秋田県への貢献を目的とするさまざまな活動を行っています。

創立30周年を迎えた昨年は、30周年記念フェスタ、会報特別号の発行といった記念事業が行われました。本年も県南地域へのふるさと訪問、11月の秋高連フェスタ他、例年行われる諸行事が予定されています。ご希望の方はぜひご参加ください。

昨年の秋高連30周年記念フェスタにて

秋高連へは当会から大野省治(S42卒)が顧問として、武内暁(S42卒)が副幹事長として運営に参加しています。

※ けやき会及び秋高連の諸行事等については当会ホームページにて随時ご案内しています。
参加ご希望の方はホームページをご確認の上、当会事務局までご連絡ください。

# 同窓会本部事務局だより

本部事務局長　佐藤 英明　S46卒

３月１日に卒業式が挙行されました。新制高校になって最も少ない270名の卒業生が母校を巣立っていきました。今年の卒業生は全員が進学希望で就職者はいないそうです。この卒業生のかなりの数が、首都圏の大学に進学することになります。東京同窓会の皆さんには、様々な形でお世話になると思いますが、先輩のよしみで面倒をみてくださるようよろしくお願いします。

卒業式前日の２月29日には、同窓会の入会式が行なわれました。入会式は、町田睿会長のあいさつのあと、平成16年卒の秋田就職総合研究所代表　須田紘彬さんが先輩激励の言葉として講話をしました。その後、高島清子副会長から生徒代表に入会記念品が贈呈されました。

入会記念品は、「校章」と「おのれを修めて世のためつくす」という校歌４番の一節が印刷されたUSBメモリーと、祝い菓子(校章の焼き印が入った桜どら焼き)でした。入会記念品は、ベルトのバックルだったり、ネクタイピンだったりしたこともありましたが、女子生徒が多くなるについて、男女にかかわらず使えるものということで、校章型の文鎮がしばらく続きました。時代が変わり、もらっても使う機会がないなどの声を受け、携帯ストラップが数年続いた後、５年前から今のUSBメモリーになっています。

入会記念品は時代の変遷により大きく変わりましたが、同窓会の本質は昔も今も変わりません。同窓会も今年から２世紀目にはいります。引き続きよろしくお願いします。

# 幹事長だより

東京同窓会幹事長　鎌田 進　S47卒

平成28年は波乱の幕開けからスタートしました。北朝鮮による核実験、そして人工衛星と称する弾道弾ミサイルの発射、連日のようなテロによる殺害事件、原油の暴落、株式の乱高下、中国経済の減速による日本経済への打撃等々なかなか良い材料が浮かんできません。

新聞では毎日のように殺人事件・中学生の自殺・親による幼児の虐待死等々の痛ましい出来事の連続。明るい材料はないものかと探すが中々見当たらず、いっそテレビニュースや新聞は見ない方が良いかもと思ってしまいます。アベノミクス効果も中小企業までに届くのが遅く経済が良くなってきているという実感が盛り上がりません。悪いところを並べ立てて嘆いていてもはじまりませんので前向きに生きて行こうと考えている毎日です。

さて、今度の東京同窓会の総会は太平洋汽船(株)社長の「楢岡孝武」さん(S46卒)に講演をお願いしています。高校ではラグビー部で頑張った方です。ラグビーも去年五郎丸歩氏によりやっとメジャーになってきました。楽しいお話が聞けることと思います。同窓会に出席して普段の鬱積した社会の憂さを晴らしましょう。多くの方の出席を期待しています。

## ◆平成27年度／ご寄付者

平成27年4月1日～平成28年3月31日

東京同窓会へのご寄付を頂き
大変ありがとうございます。
ご寄付頂いた方々の一覧を掲載して
御礼申し上げます。

鈴木　眞理子
小玉　保次
大本　香津子
伊勢　諒吾
緑川　稔秀
服部　忠信
佐藤　茂範
熊谷　光太郎
岡本　宣子
大槻　幸一郎
深井　昭三
阿部　信泰
桑原　裕子
五代儀　俊悦
鎌田　進
齋藤　頼太郎
舘山　英昌
諸橋　公喜
綱干　博文
大野　省治
佐藤　高輝
佐藤　俊夫
鈴木　妙子
二木　猛
曽我　貢誠
浅野　美智子
柴田　紀彦

（順不同）

## ◆平成27年度／会費納入者

平成27年11月1日～平成28年3月31日 現在

昭和12年　浦川　則男
昭和18年　高橋　郁夫
昭和19年　宮川　豊
昭和20年　大友　英一
昭和20年　三船　修
昭和27年　雫石　衛夫
昭和28年　瀬下　鉄五郎
昭和30年　大坂　弘二
昭和30年　鈴木　妙子
昭和30年　高橋　捷郎
昭和30年　那須　秋男
昭和31年　柿崎　正
昭和31年　林　博
昭和31年　平山　廉三
昭和31年　渡邊　徹
昭和32年　戸嶋　成忠
昭和33年　大平　温
昭和33年　斎藤　秀世
昭和35年　大山　康雄
昭和35年　小泉　忠一
昭和36年　岩堀　泰雄
昭和36年　菅原　勉
昭和36年　田口　平治
昭和36年　平塚　重利
昭和36年　森川　毅
昭和38年　加賀谷　久
昭和39年　桑名　斉
昭和39年　佐々木　偉義
昭和39年　二木　猛
昭和40年　佐々木　唯夫
昭和40年　佐々木　眞美
昭和41年　佐藤　義春
昭和42年　奥村　茂
昭和42年　武内　暁
昭和44年　石井　雅範
昭和44年　尾形　均
昭和44年　高橋　裕次郎
昭和46年　曽我　貢誠
昭和46年　高橋　憲一
昭和46年　成田　裕一
昭和47年　赤平　真樹雄
昭和47年　赤平　裕子
昭和47年　浅野　美智子
昭和47年　柴田　紀彦
昭和47年　高木　敏明
昭和47年　吉田　仁子
昭和48年　荻津　郁夫
昭和48年　菅埜　誠
昭和49年　高橋　伸
昭和50年　熊谷　善樹
昭和50年　清野　多賀子
昭和51年　鈴木　香
昭和54年　渡部　博人
昭和55年　柴田　康弘
昭和55年　関　美貴子
昭和56年　伊藤　直樹
昭和56年　百瀬　和
昭和58年　児島　みゆき
昭和60年　大窪　克之
昭和60年　佐藤　映
平成01年　諸橋　公喜
平成03年　梁田　融
平成08年　伊藤　正寛
平成08年　柳澤　奉亨
平成09年　伊藤　貴文
平成11年　佐々木　孝広
平成13年　間宮　恒明
平成16年　木村 佐知子
平成20年　上柿　史彦
平成20年　樫尾　篤樹
平成22年　田口　大貴

ご協力に感謝いたします

### 会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。
このページには本年度の会費納入者を掲載しております。
会費が未納の方は、**本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。**
今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。
郵便局の口座番号は次のとおりです。

**00150−0−353596**
**「秋田高校東京同窓会」**